

平成21年度

# 我が国における自殺の概要及び 自殺対策の実施状況

[概要]

内閣府

この報告は、自殺対策基本法（平成18年法律第85号）第10条の規定に基づき、我が国における自殺の概要及び政府が講じた自殺対策の実施の状況について、毎年、国会に提出するものである。

その内容としては、「自殺の現状」について説明している。また、自殺対策の実施状況として、平成21年度に講じた自殺対策について、「自殺総合対策大綱」（平成19年6月8日閣議決定、平成20年10月31日一部改正）における「自殺を予防するための当面の重点施策」の項目に従い整理し、説明している。

この要冊の録自は、この国政

府外並実の策技録自

〔要冊〕

# 目次

第1章 自殺の現状	2
特集	19
自殺対策の総括と「いのちを守る自殺対策緊急プラン」	22
第2章 自殺対策の基本的な枠組みと動向	23
第3章 自殺対策の実施状況	
第1節 自殺の実態を明らかにする取組	26
第2節 国民一人ひとりの気づきと見守りを促す取組	27
第3節 早期対応の中心的役割を果たす人材を養成する取組	28
第4節 心の健康づくりを進める取組	29
第5節 適切な精神科医療を受けられるようにする取組	30
第6節 社会的な取組で自殺を防ぐための取組	32
第7節 自殺未遂者の再度の自殺を防ぐ取組	34
第8節 遺された人の苦痛を和らげる取組	34
第9節 民間団体との連携を強化する取組	35

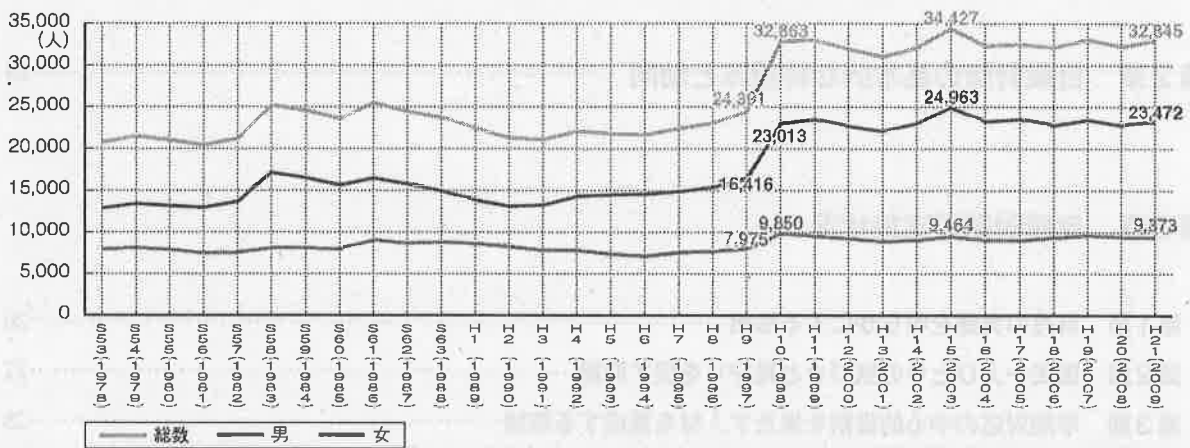
# 第1章

## 自殺の現状

### 1 自殺者数の推移

○平成9年から10年にかけて自殺者数が急増。以後、12年連続で年間自殺者数が3万人を超えている。平成21年の自殺者数は、総数3万2,845人、男性2万3,472人、女性9,373人となっている。

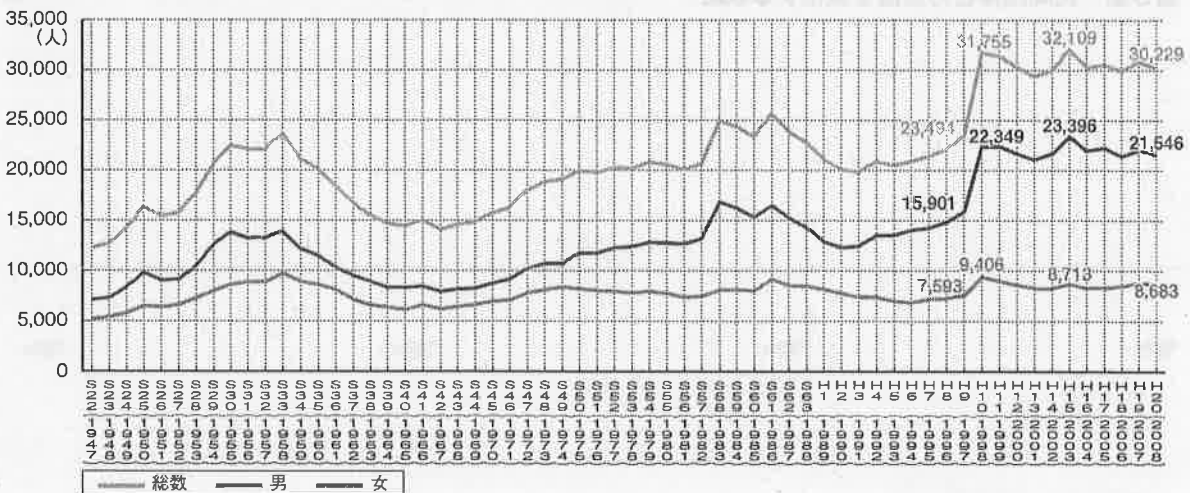
自殺者数の推移（自殺統計）



資料：警察庁「自殺統計」より内閣府作成

○長期的な推移をみると、厚生労働省の人口動態統計では、昭和30年前後、60年前後に二つの山を形成した後、平成10年に急増、以後連続して3万人前後で推移している。

自殺者数の長期的推移（人口動態統計）

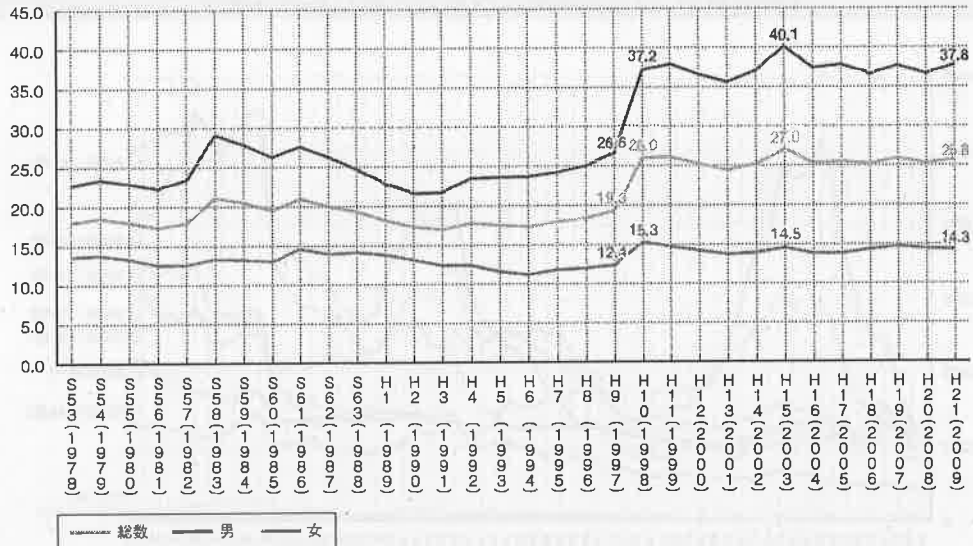


資料：厚生労働省「人口動態統計」

## 2 自殺死亡率の推移

○自殺死亡率（人口10万人当たりの自殺者数）も、自殺者数と同様の傾向であり、平成10年に急増し、平成21年は25.8と高い状態が継続している。

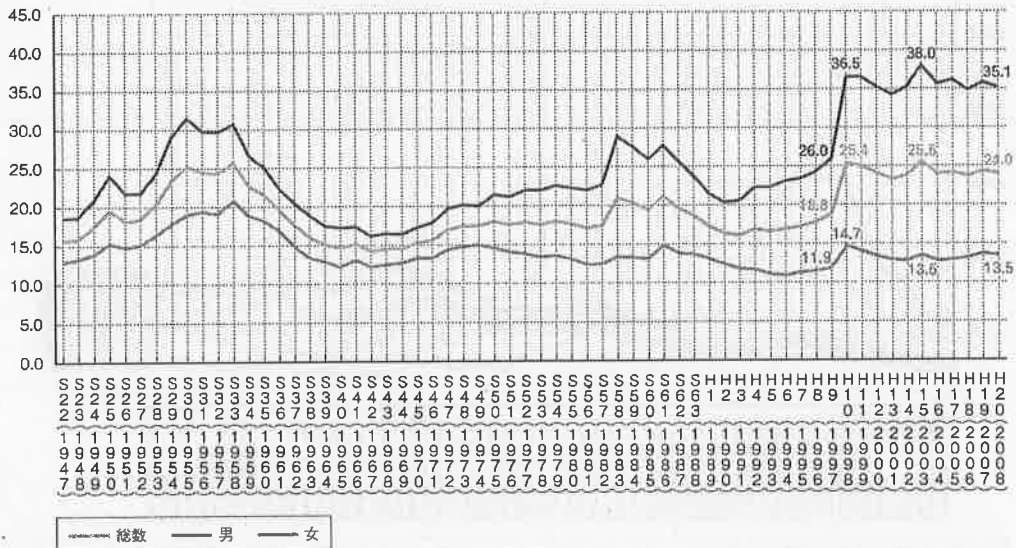
自殺死亡率の推移（自殺統計）



資料：警察庁「自殺統計」より内閣府作成

- 長期的推移をみると、男性については総数と同様の傾向で推移し、現在、戦後、最も高い水準となっている。
- 女性は、男性に比べ、一貫して低い水準で推移し、昭和40年代以後は、大きな変動はない。

自殺死亡率の長期的推移（人口動態統計）

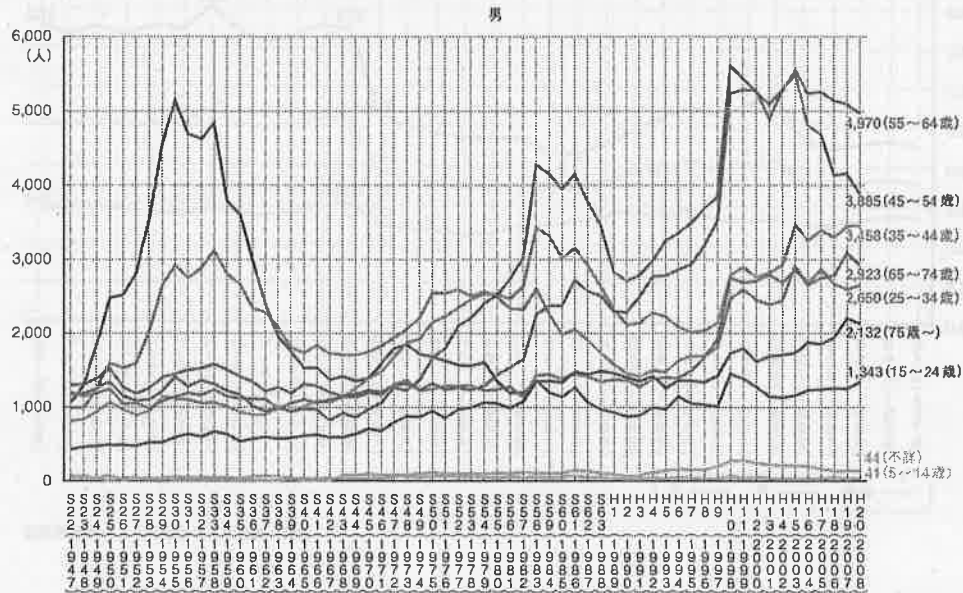


資料：厚生労働省「人口動態統計」

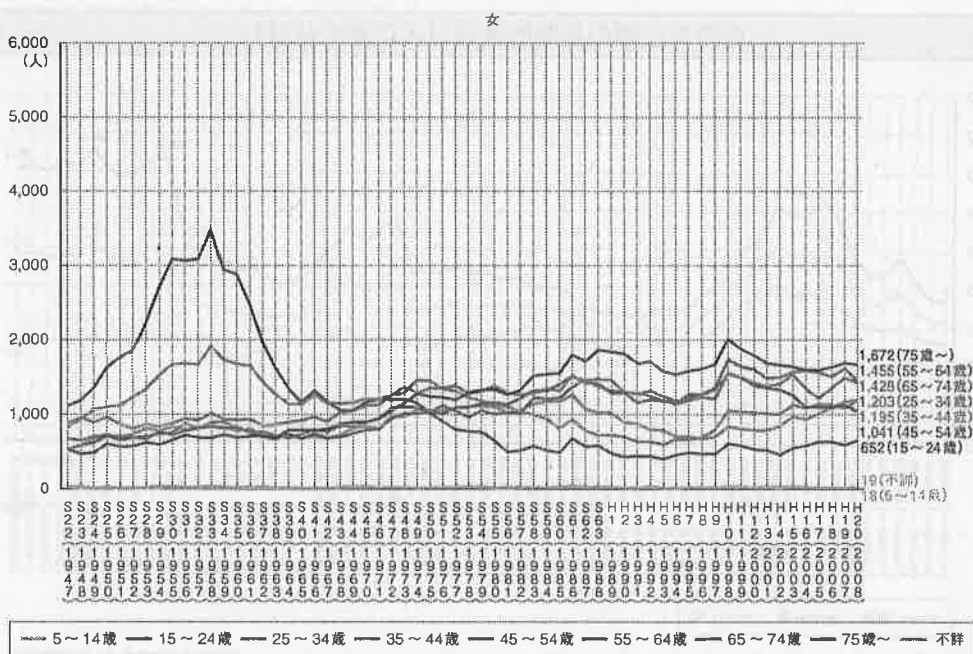
### 3 年齢階級別の自殺の状況

○年齢階級別の自殺の状況を見ると、男性については、昭和30年前後に15歳～34歳の階級、60年前後に35歳～54歳の階級、平成10年以降に45歳～64歳の階級がそれぞれ山を形成している。

年齢階級別（10歳階級）の自殺者数の長期的推移



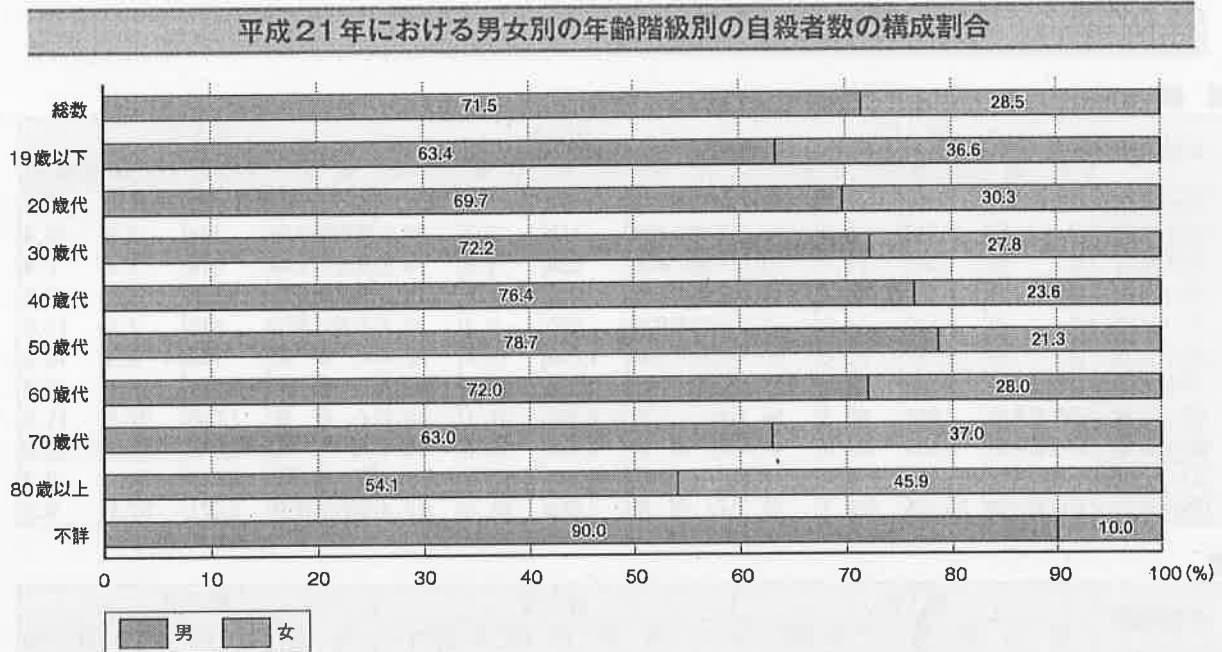
○女性については、昭和30年前後に15歳～34歳の階級が山を形成した後は、男性のような大きな変動はみられない。



資料：厚生労働省「人口動態統計」

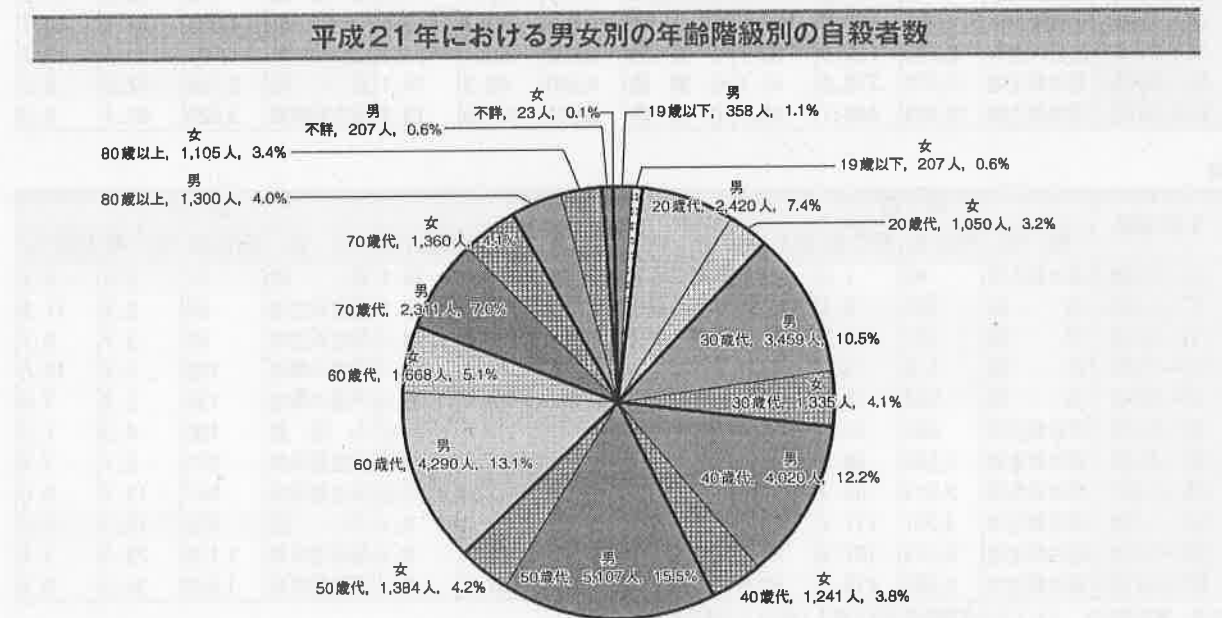
## 4 男女別の自殺の状況

○平成21年における男女別の年齢階級別の自殺者数についてみると、自殺統計によれば、すべての階級において男性の占める割合が高い。特に、30歳代～60歳代までは男性が7割を超えている。



資料：警察庁「自殺統計」より内閣府作成

○男女別の自殺の状況をみると、中高年で自殺者全体の6割、40歳代～60歳代の男性で自殺者全体の約4割を占める。



資料：警察庁「自殺統計」より内閣府作成



## 5 死因別の自殺の状況

○死因別の自殺の状況を男女別にみると、男性については、20～44歳の5階級で「自殺」は死因順位の1位となっており、特に、20～24歳の階級で50%を超えており、25～34歳の2階級でも40%を超えている。

平成20年における死因順位別にみた年齢階級・性別死亡数・死亡率・構成割合

### 総数

年齢階級	第1位				第2位				第3位			
	死因	死亡数	死亡率	割合(%)	死因	死亡数	死亡率	割合(%)	死因	死亡数	死亡率	割合(%)
10～14歳	不慮の事故	114	1.9	22.1	悪性新生物	109	1.8	21.1	自殺	58	1.0	11.2
15～19歳	自殺	507	8.3	31.3	不慮の事故	468	7.7	28.9	悪性新生物	169	2.8	10.4
20～24歳	自殺	1,488	21.7	50.0	不慮の事故	588	8.6	19.8	悪性新生物	219	3.2	7.4
25～29歳	自殺	1,703	23.1	47.0	不慮の事故	522	7.1	14.4	悪性新生物	382	5.2	10.5
30～34歳	自殺	2,150	24.5	40.7	悪性新生物	830	9.4	15.7	不慮の事故	615	7.0	11.6
35～39歳	自殺	2,358	25.0	30.7	悪性新生物	1,699	18.0	22.1	心疾患	788	8.4	10.2
40～44歳	悪性新生物	2,734	33.1	27.2	自殺	2,295	27.8	22.9	心疾患	1,237	15.0	12.3
45～49歳	悪性新生物	4,999	65.3	34.1	自殺	2,384	31.1	16.2	心疾患	1,688	22.0	11.5
50～54歳	悪性新生物	9,586	124.0	41.1	心疾患	2,833	36.6	12.1	自殺	2,542	32.9	10.9
55～59歳	悪性新生物	21,315	218.3	46.2	心疾患	5,673	58.1	12.3	脳血管疾患	3,814	39.1	8.3
60～64歳	悪性新生物	29,265	328.7	48.2	心疾患	7,563	85.0	12.4	脳血管疾患	5,071	57.0	8.3

### 男

年齢階級	第1位				第2位				第3位			
	死因	死亡数	死亡率	割合(%)	死因	死亡数	死亡率	割合(%)	死因	死亡数	死亡率	割合(%)
10～14歳	不慮の事故	84	2.8	25.5	悪性新生物	69	2.3	20.9	自殺	41	1.3	12.4
15～19歳	不慮の事故	361	11.6	34.0	自殺	306	9.8	28.8	悪性新生物	103	3.3	9.7
20～24歳	自殺	1,037	29.3	50.4	不慮の事故	460	13.0	22.4	悪性新生物	130	3.7	6.3
25～29歳	自殺	1,184	31.4	48.4	不慮の事故	399	10.6	16.3	悪性新生物	207	5.5	8.5
30～34歳	自殺	1,466	32.8	42.4	不慮の事故	476	10.7	13.8	悪性新生物	395	8.8	11.4
35～39歳	自殺	1,713	35.9	34.5	悪性新生物	717	15.0	14.4	不慮の事故	600	12.6	12.1
40～44歳	自殺	1,745	41.9	26.5	悪性新生物	1,171	28.1	17.8	心疾患	978	23.5	14.9
45～49歳	悪性新生物	2,385	61.9	24.6	自殺	1,895	49.2	19.6	心疾患	1,324	34.4	13.7
50～54歳	悪性新生物	5,265	136.3	33.7	心疾患	2,282	59.1	14.6	自殺	1,990	51.5	12.7
55～59歳	悪性新生物	13,072	270.8	41.1	心疾患	4,500	93.2	14.1	自殺	2,754	57.0	8.7
60～64歳	悪性新生物	19,409	446.7	45.7	心疾患	5,861	134.9	13.8	脳血管疾患	3,523	81.1	8.3

### 女

年齢階級	第1位				第2位				第3位			
	死因	死亡数	死亡率	割合(%)	死因	死亡数	死亡率	割合(%)	死因	死亡数	死亡率	割合(%)
10～14歳	悪性新生物	40	1.4	21.5	不慮の事故	30	1.0	16.1	自殺	17	0.6	9.1
15～19歳	自殺	201	6.8	36.0	不慮の事故	107	3.6	19.2	悪性新生物	66	2.2	11.8
20～24歳	自殺	451	13.5	49.0	不慮の事故	128	3.8	13.9	悪性新生物	89	2.7	9.7
25～29歳	自殺	519	14.4	44.1	悪性新生物	175	4.8	14.9	不慮の事故	123	3.4	10.5
30～34歳	自殺	684	15.8	37.4	悪性新生物	435	10.1	23.8	不慮の事故	139	3.2	7.6
35～39歳	悪性新生物	982	21.1	36.0	自殺	645	13.9	23.7	心疾患	198	4.3	7.3
40～44歳	悪性新生物	1,563	38.3	45.2	自殺	550	13.5	15.9	脳血管疾患	273	6.7	7.9
45～49歳	悪性新生物	2,614	68.7	52.4	自殺	489	12.8	9.8	脳血管疾患	447	11.7	9.0
50～54歳	悪性新生物	4,321	111.7	56.2	脳血管疾患	708	18.3	9.2	自殺	552	14.3	7.2
55～59歳	悪性新生物	8,243	167.0	57.5	心疾患	1,173	23.8	8.2	脳血管疾患	1,136	23.0	7.9
60～64歳	悪性新生物	9,856	216.3	53.9	心疾患	1,702	37.3	9.3	脳血管疾患	1,548	34.0	8.5

注意：構成割合は、それぞれの年齢階級別死亡数を100とした場合の割合である。

資料：厚生労働省「人口動態統計」



## 6 職業別の自殺の状況

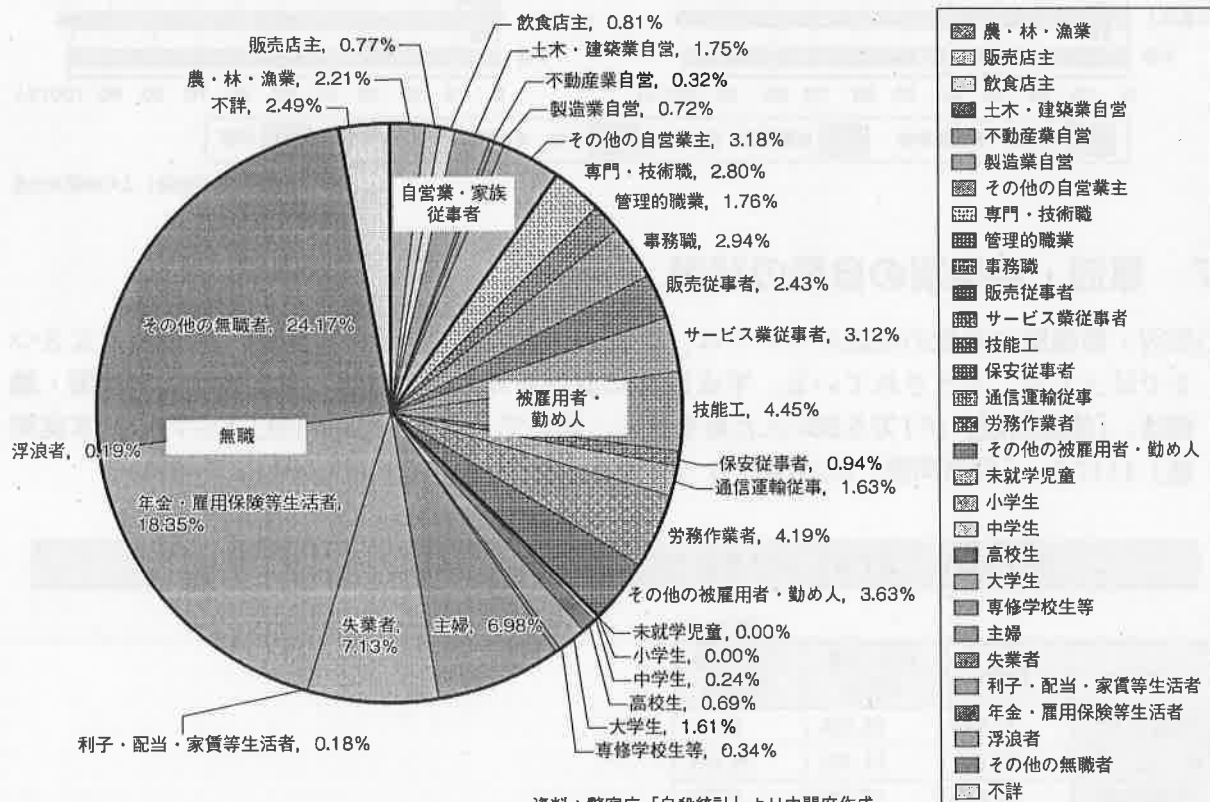
○職業別自殺者数をみると、「無職者」が1万8,722人（57.0%）と自殺者数の半数以上を占めている。

平成21年における職業別の自殺者数

	自営業・ 家族従事者	被雇用者・ 勤め人	無 職		不 詳	総 数
			学生・生徒等	無職者		
計	3,202	9,159	945	18,722	817	32,845
構成比	9.7%	27.9%	2.9%	57.0%	2.5%	100.0%
男	2,874	7,749	676	11,455	718	23,472
女	328	1,410	269	7,267	99	9,373

資料：警察庁「自殺統計」より内閣府作成

平成21年における職業別自殺者数の構成割合



○男女別・年齢階級別・職業別の状況をみると、19歳以下については、男女とも「学生・生徒等」が最も多く、男性では73.7%、女性では70.0%を占めている。男性については、20歳代～40歳代までは「被雇用者・勤め人」が最も多く、30歳代、40歳代では、約半数が「被雇用者・勤め人」となっている。女性については、20歳代以上は「無職者」が最も多く、各年代の半数以上を占めている。

平成21年における男女別・年齢階級別（10歳階級）・職業別の自殺者数の構成割合



資料：警察庁「自殺統計」より内閣府作成

## 7 原因・動機別の自殺の状況

○原因・動機別の自殺の状況については、平成19年の自殺統計から、原因・動機を最大3つまで計上することとされている。平成21年の状況をみると、原因・動機特定者の原因・動機は、「健康問題」が1万5,867人と最も多く、次いで「経済・生活問題」8,377人、「家庭問題」4,117人、「勤務問題」2,528人となっている。

平成20年・21年における自殺者の自殺の原因・動機別件数及び構成比

(単位：人)

	総数	原因・動機特定者	原因・動機不特定者
平成21年	32,845	24,434	8,411
構成比	100.0%	74.4%	25.6%
平成20年	32,249	23,490	8,759
構成比	100.0%	72.8%	27.2%

	家庭問題	健康問題	経済・生活問題	勤務問題	男女問題	学校問題	その他
平成21年	4,117	15,867	8,377	2,528	1,121	364	1,613
平成20年	3,912	15,153	7,404	2,412	1,115	387	1,538
増減数	205	714	973	116	6	-23	75
増減率	5.2%	4.7%	13.1%	4.8%	0.5%	-5.9%	4.9%

注：遺書等の自殺を裏付ける資料により明らかに推定できる原因・動機を自殺者一人につき3つまで計上可能としたため、原因・動機特定者の原因・動機別の和と原因・動機特定者数とは一致しない。

資料：警察庁「自殺統計」より内閣府作成

○年齢階級別の状況を見ると、ほとんどの階級において「健康問題」が最も多くなっているが、男女別にみると、19歳以下の男性では「学校問題」、40歳代及び50歳代の男性では「経済・生活問題」が最も多くなっている。

平成21年における自殺者の年齢階級別（10歳階級）・自殺の原因・動機別の件数

総数

		19歳以下	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	不詳	合計
原因・動機別件数	1	健康 173	健康 1,413	健康 2,175	健康 2,195	経済・生活 2,725	健康 3,157	健康 2,487	健康 1,614	経済・生活 3	健康 15,867
	2	学校 155	経済・生活 528	経済・生活 1,165	経済・生活 1,848	健康 2,652	経済・生活 1,702	家庭 511	家庭 373	その他 3	経済・生活 8,377
	3	家庭 84	勤務 471	家庭 627	家庭 736	家庭 723	家庭 728	経済・生活 337	その他 192	健康 1	家庭 4,117
	4	その他 55	男女 387	勤務 622	勤務 615	勤務 575	その他 270	その他 209	経済・生活 50		勤務 2,528
	5	男女 54	家庭 335	男女 356	その他 192	その他 255	勤務 199	勤務 20	男女 6		その他 1,613
	6	勤務 23	学校 202	その他 239	男女 168	男女 97	男女 37	男女 16	勤務 3		男女 1,121
	7	経済・生活 19	その他 198	学校 5	学校 1			学校 1			学校 364

男

		19歳以下	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	不詳	合計
原因・動機別件数	1	学校 100	健康 752	健康 1,279	経済・生活 1,694	経済・生活 2,552	健康 1,964	健康 1,440	健康 850	その他 3	健康 9,460
	2	健康 81	経済・生活 461	経済・生活 1,051	健康 1,364	健康 1,729	経済・生活 1,558	家庭 312	家庭 203	経済・生活 2	経済・生活 7,634
	3	家庭 49	勤務 392	勤務 555	勤務 557	勤務 545	家庭 493	経済・生活 272	その他 90	健康 1	家庭 2,688
	4	その他 33	男女 242	家庭 414	家庭 496	家庭 507	その他 196	その他 124	経済・生活 29		勤務 2,270
	5	男女 29	家庭 214	男女 215	その他 147	その他 200	勤務 185	勤務 18	勤務 2		その他 1,131
	6	勤務 16	学校 165	その他 188	男女 116	男女 72	男女 25	男女 11	男女 2		男女 712
	7	経済・生活 15	その他 150	学校 4				学校 1			学校 270

女

		19歳以下	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	不詳	合計
原因・動機別件数	1	健康 92	健康 661	健康 896	健康 831	健康 923	健康 1,193	健康 1,047	健康 764	経済・生活 1	健康 6,407
	2	学校 55	男女 145	家庭 213	家庭 240	家庭 216	家庭 235	家庭 199	家庭 170		家庭 1,429
	3	家庭 35	家庭 121	男女 141	経済・生活 154	経済・生活 173	経済・生活 144	その他 85	その他 102		経済・生活 743
	4	男女 25	勤務 79	経済・生活 114	勤務 58	その他 55	その他 74	経済・生活 65	経済・生活 21		その他 482
	5	その他 22	経済・生活 67	勤務 67	男女 52	勤務 30	勤務 14	男女 5	男女 4		男女 409
	6	勤務 7	その他 48	その他 51	その他 45	男女 25	男女 12	勤務 2	勤務 1		勤務 258
	7	経済・生活 4	学校 37	学校 1	学校 1						学校 94

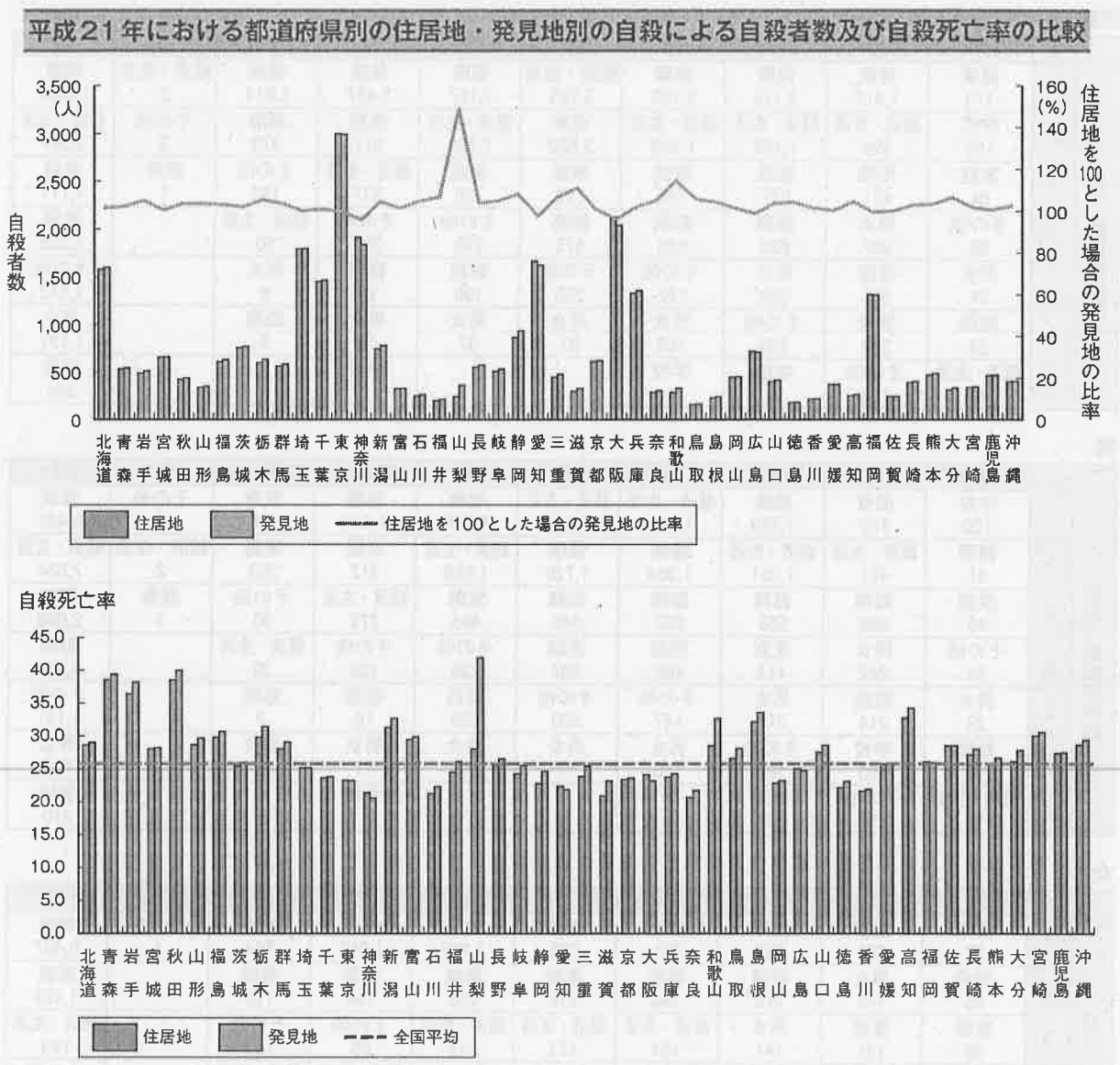
注意：原因・動機別件数は、原因・動機特定者一人につき3つまで計上可能としたため、自殺者数とは一致しない。

「家庭問題」「健康問題」「経済・生活問題」「勤務問題」「男女問題」「学校問題」を、それぞれ「家庭」「健康」「経済・生活」「勤務」「男女」「学校」と表記している。

資料：警察庁「自殺統計」より内閣府作成

## 8 都道府県別の自殺の状況

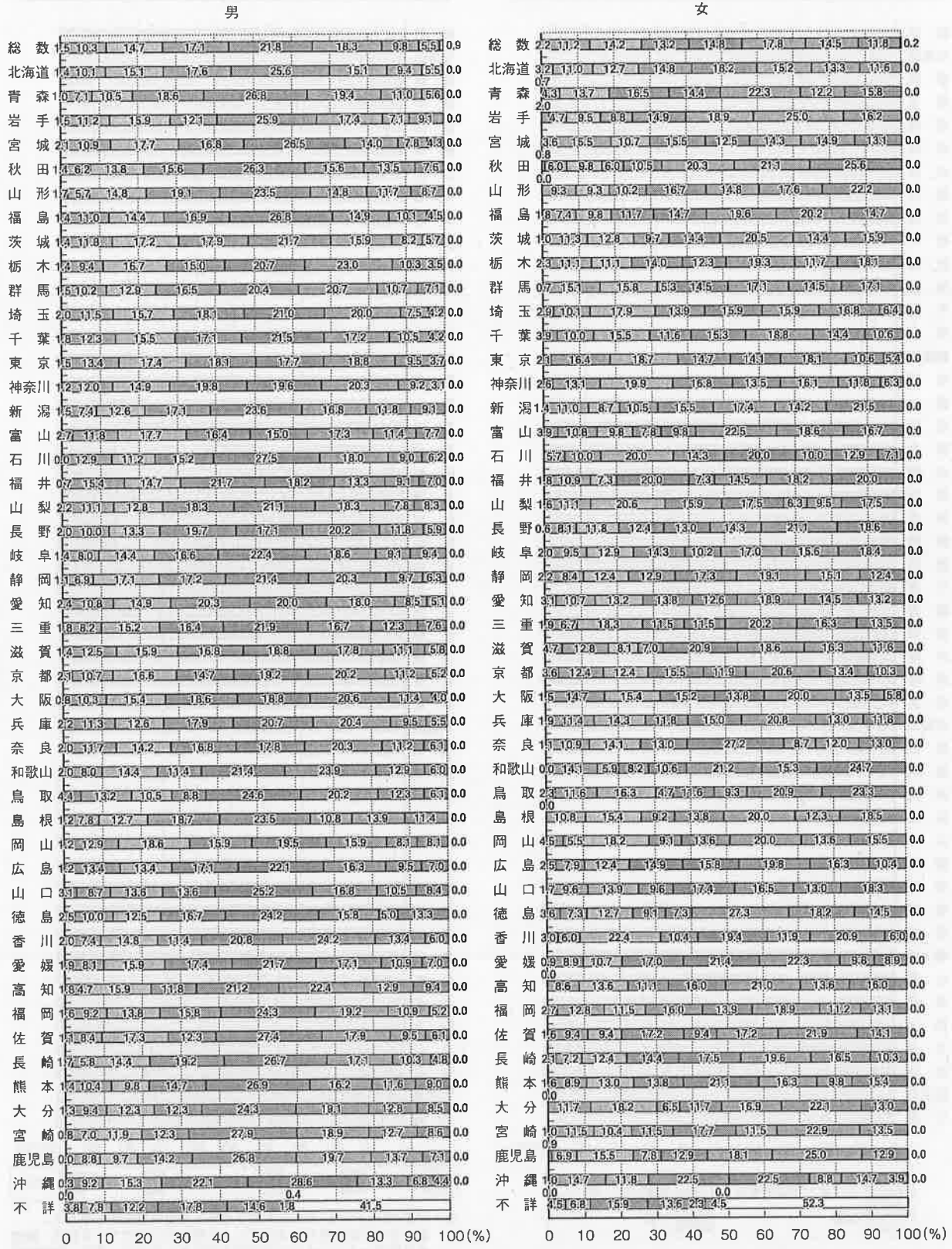
○都道府県別の自殺の状況をみると、住居地の自殺者数に比べ、発見地の自殺者数が多くなっているところがあり、自殺死亡率についても同様の傾向が見られるため、住民以外の自殺防止についても配慮が必要である。



資料：警察庁「自殺統計」及び総務省「人口推計」より内閣府作成

○都道府県別の「男女別・年齢階級別」「職業別」「原因・動機別」の自殺者の構成割合は、次のとおりとなっている。

平成21年における都道府県別の男女別・年齢階級別（10歳階級）の自殺者の構成割合（住居地）



資料：警察庁「自殺統計」より内閣府作成